

地域イベントにおける プロジェクションマッピング手法を 用いた情報提供について

芸術学部
ソーシャルデザイン学科
准教授
岩田 敦之



研究シーズの紹介

地域のイベントなどにおいて、プロジェクションマッピングの活用は進んでいますが、アートやエンターテインメントでの使用に限られています。当研究室では、アートやエンターテインメント分野でのプロジェクションマッピングの活用と並行して、誘導案内等でも、プロジェクションマッピングの技術は有効活用で

きると考え、効果的な視覚情報伝達の形を模索しています。本研究では、実際のイベントにおいてプロジェクションマッピングの技術を活用した情報伝達の実証実験を行うことによって、特に夜間時や混雑時における、効果的かつ公共性の高い情報伝達を行うための手法の確率を目指しています。



プロジェクターを活用した 視覚情報伝達

- 夜間のイベントなどで視認性の高い情報伝達が可能
- 映像投影技術の活用で状況に合わせた情報提供が実現可能



関門海峡花火大会（2019）での情報提供



学内イベントでの情報提供

期待される活用シーン

- 夜間イベントなどで、状況に合わせ必要な情報を分かりやすく来場者に伝えたい。



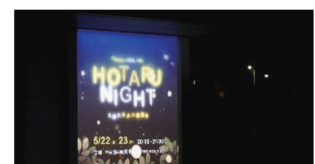
会議などで使用する小型プロジェクターなどでも運用可能なため、気軽に情報伝達を行えます。



- 混雑する夜間のイベントでは、欲しい情報が手に入りにくい。歩きスマホは危ないし…。



夜間でも明るく見やすく、状況に合わせて必要な情報が取得できます。



その他の研究テーマ

モーショングラフィックスを用いたビジュアルコミュニケーションに関する研究
デジタルサイネージに関する研究